

平成31年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月29日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。  生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	①新学習指導要領の趣旨を踏まえた、新教育課程の編成を構築する。  ②生徒が主体的に学ぶための授業研究を行う。 ・ICT機器等を活用することで、さらに分かりやすい授業の実現を目指す。	①新学習指導要領の改訂に伴う課題を把握し、その対応を検討する。  ②前期はスクーリング、後期はレポートについてテーマを設定し、研究授業を含めた全員協議会を開催する。 ・ICT機器等を活用した授業の研修会を三課程合同で実施する。	①グループ会議や教科会で、新学習指導要領の改訂に伴う課題を把握し、その対応を検討することができたか。 ②授業研究を通して、アイデアを出し合い、授業改善の手立てを共有できたか。 ・ICT機器等の特長を活かした授業の利点を共有することができたか。	①各教科で教育課程編成の基本方針を検討した。  ②計画通り、2回の研究協議会を実施した。  ・ICT利活用研修会を2回実施した。	①教育課程編成において留意すべき点を確認し、必履修科目や選択科目、学校設定科目の設置について検討する。  ②研究協議がマンネリ化しないように、テーマを考え、協議の仕方を工夫していきたい。  ・ICT機器を活用する先生方が増えたために、タブレットPCの予約が取りにくくなった。	・ICTの利活用が進んでいる。さらに、タブレット等の教材を充実させたい。	①新学習指導要領に基づく教育課程編成について理解を図ることができた。通信制にふさわしい教育課程編成をしていくことが課題である。 ②年2回の授業研究を継続できている点は評価できる。今後も研究テーマの設定に工夫をしていきたい。 ・ICT利活用研修会等を経て、ICT機器の活用が増えた反面、ゲーゲルクロムの導入やBYOD等の新たな活用機器やコンテンツが増えている。	①新学習指導要領における各教科・科目の設置や学習指導の改善について検討していく。  ②ICT機器を使った実践研究などを取り入れることを検討する。 ・タブレットPC等の増設や地道な研修活動を行う。
2 生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。  学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	①外部の関係機関の人材と連携し、支援体制の充実を図る。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組を徹底する。  ②生徒が主体的に活動し、自己肯定感が高められる環境づくりを進める。	①心身の健康や自らの生活・教育環境に課題を抱えている生徒がきわめて多い。ゆえに生徒の情報交換を常時行い、家庭への連絡や、SSWやSCとの協力・連携を密にし、より良いサポート体制を構築する。 ・いじめについても初動の適切な指導に十分な配慮をし、相談しやすい、または安心できる教育環境の形成に努める。そのためのアンケート調査も活用する。  ②生徒に主体的な活動の場としてカフェ等を利用させ、達成感や自己肯定感を持ち、学校生活の充実を満喫できるよう、常にアドバイスをを行う。	①注意すべき生徒の動向やその対応にきちんと検証を行い、改善点を明確に浮き彫りにしたか。  ・いじめの有無を的確に精査し、あった場合は迅速かつ適切な指導・助言を行えるようその体制を整えられたか。  ②学校行事や課外活動での実績、その他の生徒活動状況を総合的に見て、生徒が笑顔で安心して学校生活を過ごしているかを、多面的な視野から判断し、生徒の学習状況や進路実現などへ繋がっているか。	①教職員での情報交換会を2回実施した。教育相談コーディネーター、SSW、SCと情報共有会を月1回程度実施した。注意すべき生徒の年度での経過報告、来年度への引継ぎを実施した。いじめアンケートを2回実施した。  ②スクーリング時のカフェ、特別企画のカフェを実施し、生徒の居場所づくり、交流の場を設けた。	①生徒情報や対応についての共有・情報更新・引き継ぎ方法について、改善を検討する。 支援が必要な生徒は多くいるので、迅速に支援できるよう、SSW、SCとの連携、外部機関との協力、支援体制の改善を検討する。  ②学校行事の機会や多くの生徒が参加できる内容を企画、実施することが必要と感じる。カフェ活動もより多くの生徒が参加できるように、外部機関と協力して、今後も実施していきたい。	・SCやSSWとの連携、カフェの設置など生徒理解に努めている様子がうかがえた。 ・カフェはとても良いシステムだが、登校しないと活用できないので、支援が必要な生徒が登校しなくても対応できるシステムを構築するとよい。	①年2回、前期・後期に情報交換会を、そして月1回程度、SC、SSWとともに情報共有会を実施し、生徒情報の共有と引き継ぎ、外部機関と協力することができた。 入学時の生徒カードでは情報が古くなってしまう場合があり、新たな情報を得ることもある。最新情報の更新について課題がある。  ②生徒会担当のグループを新たに作り、環境整備を行うことで生徒会活動を活性化させることができた。さらに活動を広げ活発にすることで生徒の学校生活に対する充実感を高めたい。	①教育相談やカウンセリング利用のさらなる周知方法を検討していく。より良い情報共有体制、情報更新体制を検討し、支援体制の充実を図る。 ②カフェと生徒会活動の連携によって生徒の活動の活性化を図ることを検討する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月29日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①多様な課題を抱える生徒に対応するキャリアサポート体制の充実を図る。	①スクールキャリアカウンセラーの力を借りながら、適切かつ確実性の高いキャリアサポート体制を構築する。 ・ハローワークのジョブサポーターとの連携も密にし、より良い就職活動を支援する。 ・進学についての様々な情報を他課程と同様に提供できるように細心の注意をするように努める。また、そのための情報の取捨選択や情宣のメソッドを多角的に分析し、生徒の利益となるように充実させる。	①生徒への的確な進路指導、実現が果たせたかを、具体的な進路決定先を表し、検証できたか。 ・進路未定のまま卒業を迎える生徒を、極力減らすような取り組みができたか。 ・生徒のキャリア教育に関して、実効力のある情報提供、アドバイスができたか。	①模擬面接や履歴書・小論文、プレゼンテーション指導など、選考のニーズに合わせた対策を丁寧に実施できた。 ・情報が不足しがちな現場において、多様な情報源にアクセスし、進路情報をその都度提供することができた。	①可能な限り個別に進路指導を試みたが、指導に乗れない生徒や進路を決めかねた生徒の適正も考え、メソッドの再検討・再構築が求められる。 ・SCCやカフェ活動をさらに活用し、多面的な進路指導を目指したい。 ・進学や就職の制限がある中で、より良い進路活動を行っていくことが今後の課題である。	・生徒のキャリア教育が充実している様子がうかがえた。 ・情報収集が大変な中、とても丁寧に対応していただいた。卒業生が活躍する様子が、通信制への理解を深めるのに役立っている。 ・通信制のメリットやそこで学ぶ生徒の頑張りの様子などを上手に発信できる場があるとよい。	・進学や就職における制約がある中で生徒は、進路実現に向けて良く努力し健闘した。教員側からの支援を今後も行っていきたい。 ・外部への情報発信や卒業生へのアプローチには、SNSなどの活用も期待される。そのためには教員側のスキルアップが課題となる。 ・特にSCCの尽力により、粘り強く進路指導に取り組めたと思う。	・次年度はグループメンバーも刷新されるため、より綿密な進路指導の実現が期待できると思われる。 ・ICT活用面を今後はさらに充実させ、進路指導のより良い改善を行っていきたい。 ・SCC制度の拡充を強く要請したい。
4	地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域との連携を推進し地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・防災活動について地域との協働を図る。  ②教育活動の情報発信の充実を図る。	①通学路の清掃活動、小学校のイベント参加などを通して、地域社会への貢献・交流を行う。また、厚木市、近隣自治会との連携を密にして、避難所としての役割を果たすための避難所運営委員会の設立をめざすとともに地域との協働を図る。  ②ホームページの充実やスクーリング公開などを通して学校の広報活動を充実させる。	①生徒が貢献活動の意義を理解し、活動に満足感を持てたか。地域の方々に活動が認知されているか。避難所運営マニュアルが完成したか。避難所運営委員会が設立できたか。  ②各種学校説明会等への参加者が増加しているか。	①火曜スクーリングの放課後に通学路の清掃を行った。厚木二小「DAI-2フェスタ」に生徒3名が参加した。厚木市より本校を避難所とする自治会が指定されておらず、整備に至っていない。 ②全ての学校説明会で過去最高の参加者であった。	①通学路の清掃、「DAI-2フェスタ」への参加等を通して地域連携を継続していく。 ・厚木市と連携をはかり、本校を避難所とする自治会を早急に指定するよう働きかける。  ②中学校の先生の参加が少ないので、ミスマッチを防ぐためにも先生向けの説明会を検討する必要がある。	・厚木第二小の連携を今後も続けてほしい。中学校の先生向けの説明会を検討してほしい。	・通学路清掃活動の継続や、「DAI-2フェスタ」への参加、岡田保育園の防災訓練への協力などを継続している。また避難所として厚木市や地元自治会と協働した運営委員会の設置が遅れている。 ・本校のシステムを知らずに入学している生徒がいるので、中学校の先生向けの説明会が必要である。	・清掃活動、「DAI-2フェスタ」岡田保育園の避難訓練への協力は今後も継続し、「避難所運営委員会」の設立には、厚木市にさらに強く働きかける。  ・ミスマッチを防止するためにも、中学校の先生向けの説明会を計画する。また、多くの転編入生も入学してくるので、高校の先生方への周知も検討したい。
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。  フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等の内容の充実を図る。 ・三課程で連携実施する防災訓練を発展させる。 ②ICT機器の利活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①学校安心安全管理計画を作成し、学校の安全教育・安心管理の充実や周知を図る。また、三課程合同防災訓練をより実践的なものに工夫する。  ②ポータルサイトの更なる活用とICT機器の利活用のための研修を充実させる。	①学校の安全安心管理の充実と職員への周知ができたか。  ②三課程の情報共有にポータルサイトが十分機能しているか。	①今年度も三課程避難訓練を実施することができた。  ②ポータルのトップ画面に三課程の動きが表示されるようになりさらに各課程の動きが分かりやすくなった。	①避難の訓練は問題なくできることがわかった。今後は様々な災害を想定した訓練を計画したい。  ②大きな行事の時だけでなく日々更新されるとさらに便利になる。	①三課程の連携について今後も続けてほしい。 ・防災対応などについては、同じ地域の中での学校間の連携や役割分担等が明確になるとよい。	①各課程での防災訓練の他に三課程合同の防災訓練を実施して安全・安心を担保しているが、近年の気候変動の影響から台風による大雨や洪水の危険が増加している。 ②三課程の行事の際にはポータルサイトを十分に活用しているが、こまかな部分での重複はいまだに発生する。	①本校の生徒のみならず、近隣住民も含めての安全・安心を考えた防災計画、備蓄計画を考える必要がある。  ③三課程の先生が毎日必ずポータルサイトを見ることを励行する。